

artful\_saffron\_006\_medusa\_and\_arabesque

## 001\_1\_魔除けの鬼瓦のまとめ

本稿は、サフラン酒の鬼瓦について、  
ネットを中心にアート情報を絡め、  
関連した話をまとめたものです。

**強調したいことは、  
サフラン酒の鬼瓦が、立派な顔つきで、  
しかも対の、双龍であること。**

メドゥーサ、鬼瓦は魔除け招福

葡萄唐草文は、永遠の継続への憧憬

## 起源のひとつ メドゥーサ (Medusa)

ギリシャ・ローマ文明から中東の王国に  
引き継がれ、さらにインド、中国を経て  
日本へ辿りつき、それが鬼瓦になり、  
鬼瓦に巻き付く龍も、登場した。

# メドゥーサ は 邪気をはらい、 侵入者を防ぐ怪物

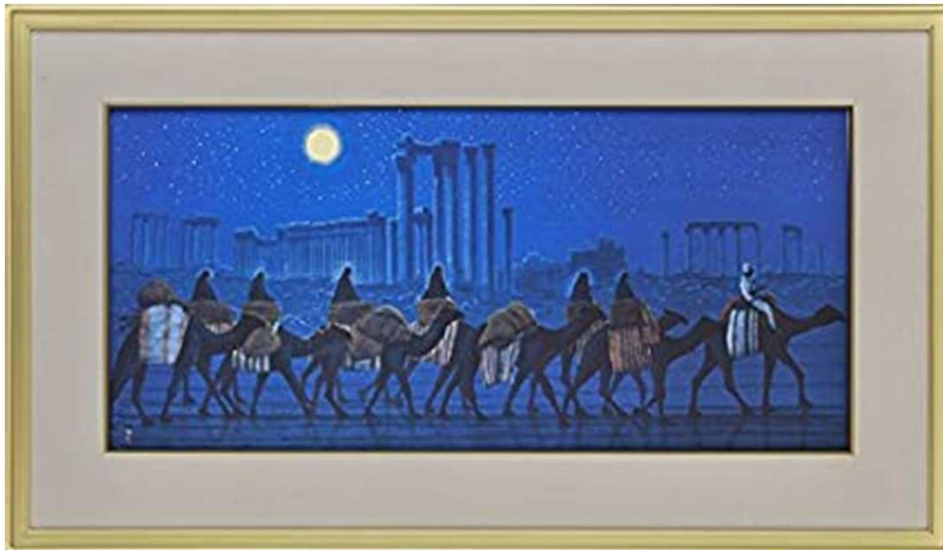


570 B.C.

蛇を巻いた髪、大きな耳.

# 現存するメドゥーサ

紀元三世紀ころに滅んだ隊商都市パルミラの地下墓の入り口に、飾りとして存在するとのこと



紀元前1世紀～3世紀のパルミラ

「パルミラ遺跡 夜、朝」 平山郁夫さんの大作

## もうひとつの起源 蛇・ヘビ

### ナーガ

インド神話に起源を持つ、蛇の精霊、蛇神のこと。

元来コブラを神格化した蛇神であったはずだが、コブラの存在しない中国では漢訳経典において「竜」と翻訳され、中国に元来からあった龍信仰と習合し、日本にもその形式で伝わっている。

### みずち(蛟)

日本の神話・伝説で水と関係があるとみなされる。

竜類か伝説上の蛇類または水神。

## そのほか龍、魔除けを含めた見直し

※メドゥーサ	ギリシャ、中東の神話に起源を持つ、邪気をはらい侵入者を防ぐ怪物。
※ナーガ	インド神話に起源を持つ、蛇の精霊。コブラのいない中国では漢訳経典において「竜」と翻訳。
※みずち(蛟)	日本の神話・伝説の水神。
※龍	恐れの対象から守護神へと変容
※猪の目	恐ろしいものから「魔除け」に変容

日本で、恐ろしいものから、  
魔除け、守護神へと役目を  
変えた。



## 鬼瓦に巻き付く龍の例

清水寺三重塔、創建は 平安初期(841)

龍は雨を呼び 火を防ぐ守護神で  
鬼瓦の厄除けと合体したと  
みることができるとされる。



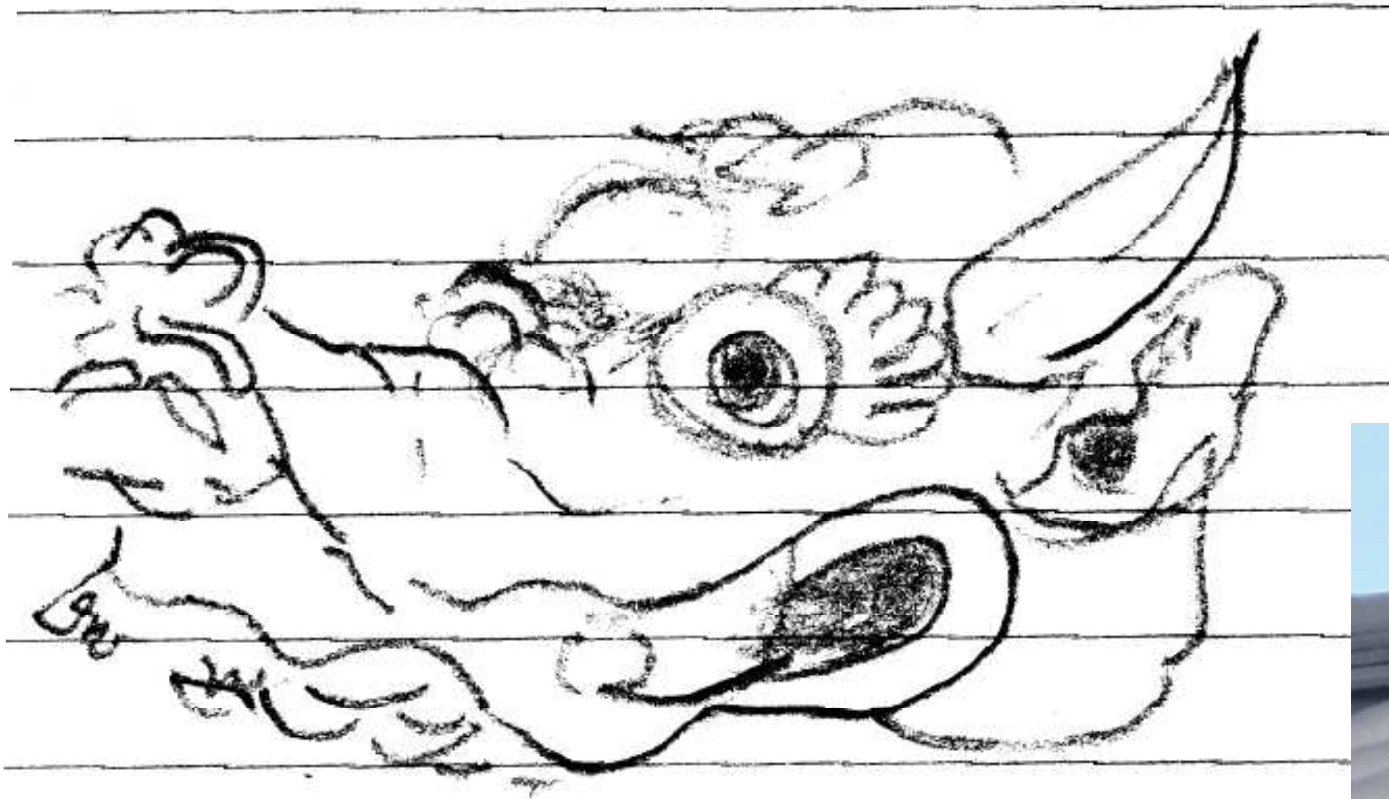


その時代は、陰陽道の盛んな時代。  
天変地異や疫病などの災いは、鬼の仕業と  
考えられていた。

鬼瓦の鬼は、その鬼を龍で押さえつけ、  
厄除けとなったと見なされる。

日本の鬼の話を一別記します。  
(MfG\_J\_日本の鬼)

# 2022年4月近美「平等院鳳凰堂と浄土院」展



会場で見た、本堂・鳳凰から延びる降棟の先端にあるという、「龍頭瓦」のスケッチです

降棟の先にある瓦は鬼面が一般的ですが、  
鳳凰堂の場合は龍頭となっています。

降棟が体、その先に頭がついていて、全体として  
巨大な龍となる、珍しい形とのことです。

サフラン酒  
主屋の鬼瓦



# 米蔵の鬼瓦（撤去後）



その平等院鳳凰堂の屋根の龍頭と、サフラン酒の鬼瓦の龍を、見比べてみると、雰囲気は酷似していることに気づきます。二頭でワンセットの構成も同じです。



平等院鳳凰堂の  
屋根の龍(サイズ 60cm)



サフラン酒の鬼瓦の  
龍 (米蔵の鬼瓦)

## サフラン酒の鬼瓦の龍について

二頭の龍も珍しいと思いますが、その龍の雰囲気、龍頭瓦のような正統的な龍に酷似している。

これは、凄いことだと思っています。